

ミュージアムコラム

武庫川女子大学附属総合ミュージアムでは、所蔵する国の登録有形民俗文化財「武庫川女子大学近代衣生活資料」全9,092点から季節の主題に沿う資料を選び、一年を通じて学術研究交流館(IR館)1階ロビーにて展示をおこなっています。

2025年度夏季企画

夏のおでかけ

2025年6月27日(金)～8月29日(金)

夏に着るきものは、^ろ 絹や^{しゃ} 紗といった織物が用いられます。これらは^{もじ} 掬り織(絡み織)という技法で織られたもので、織り方に多少の違いがありますが、いずれも通気性がよいのが特徴です。

このたびの展示では、夏のおでかけの際に着られた絹と紗のきものをご紹介します。ぜひその涼しげな生地の様子を感じてみてください。

あわせて、過去に日本で開催された博覧会に関連する資料もご紹介します。大阪・関西万博が開催されているいまだからこそ、過去の博覧会にも思いを馳せていただけましたら幸いです。

あおいろ ろ じりゅうすいしきがた かきつばたもんようひとえ

1. 青色絹地流水色紙形に杜若文様単衣 (昭和15年(1940)頃)



観世水風の流水文様の地紋に、色紙形が散らし風に配されています。色紙形には、流水に杜若模様が施されており、まるで実際の水面に色紙が浮かび、揺蕩っているようです。模様の涼やかさ、地の青色が相まって、着物全体が涼しい雰囲気を感じさせています。

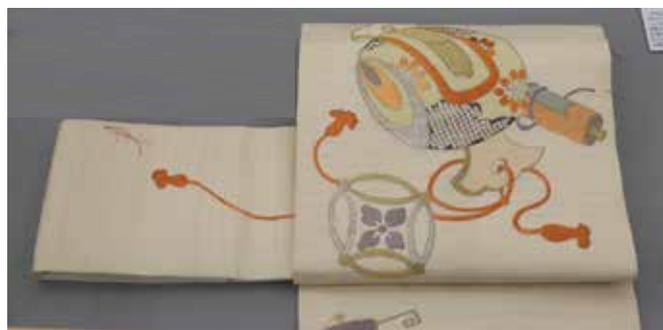
あおいろしやしじ からくさもんようひとえ
2. 灰色紗地唐草文様単衣
(昭和戦前期)

大胆な唐草文様が全体に施された単衣です。唐草文様を引き立てる縦のストライプは、紗の変わり織りで表現されており、遠目で見ると黒いラインに見える部分は、実際には透け感が強くなっています。唐草文様にみられる表現は、アール・ヌーヴォー風ともいえます。



ろじたからづ もんよう なごやおび
3. 紹地宝尽くし文様名古屋帯
(昭和戦前期)

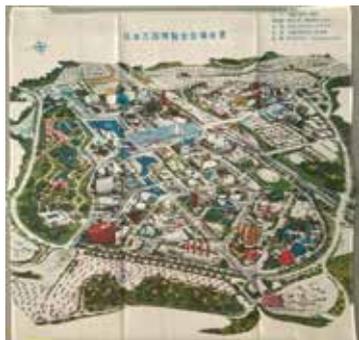
生成り紹地の名古屋帯で、お太鼓部分には打ち出の小槌と分銅、巻物が、染めと刺繍で施されています。また胴の部分に巾着と丁字、たれ先の部分に宝鑰が施されており、宝尽くし文様となっています。金系・銀系が多用されており、シンプルながら華やかな雰囲気です。



2025年 大阪・関西万博開催にちなんで

にほん ばんこくはくらんかいかいじょうぜんけい
4. 日本万国博覧会会場全景 ハンカチ
(昭和45年(1970))

1970年に大阪府吹田市千里丘陵で開催された大阪万博の会場全景をプリントしたハンカチです。右上に万博のテーマや参加国数などが記され、各パビリオンには名称が記載されています。日本ではじめて開催されたこの万博は、6,422万人もの総入場者数を記録しました。



だいがかいないこくかんぎょうはくらんかい めいよかいいんしょう
5. 第五回内国勸業博覧会 名誉会員章

だいがかいないこくかんぎょうはくらんかい きねんしょう
6. 第五回内国勸業博覧会 記念章

(明治36年(1903))

大阪の薬種問屋を出自とする家から寄贈された資料の一部で、明治36年(1903)に開催された第五回内国勸業博覧会の記念章と名誉会員章です。当家の資料には徽章や会員章などが多数含まれており、大阪・道修町の業者が、大坂で開催された内国勸業博覧会などの事業に関わっていたことが示唆されます。



次回の展示は2025年9月を予定しています。